

総合教養

問題冊子

指 示

合図があるまでは絶対に中を開けないこと

「総合教養」の試験では、最初に短い講義(15分程度)を聴きます。その後に合図のアナウンスがあったら問題冊子を開けて問題に答えて下さい。試験時間は、講義部分を含めて**80分**です。

1. 講義を聴きながら、メモをとっても構いません。メモをとる場合は、配布されたメモ用紙のみを使用して下さい。講義中は問題を見ることはできません。
2. この問題冊子には、PART I, II, III, IV の4つがあります。PART Iでは、講義内容に関する学際的な設問に解答します。PART II, III, IVでは、それぞれ人文科学、社会科学、自然科学の視点から書かれた論述や資料を読み、それらに関する設問に解答します。
3. 問題数は全部で**40問**です。配点は**80点満点**です。解答カードには50の解答欄がありますが、41以降は使用しないで下さい。
4. それぞれの設問には、4つの答えが選択肢として与えられています。その中から最も適切と思われる答えを1つだけ選び、解答カードの所定欄の a, b, c, d のいずれか1つを鉛筆で黒くマークして下さい。解答のしかたは、この問題冊子の最初のページにも指示してあります。
5. 一度書いた答えを訂正するには、消しゴムできれいに消してから、改めて正しい答えを、定められた通りにマークして下さい。
6. 「解答やめ」の合図があったら、ただちにやめて下さい。試験監督が問題冊子、解答カード、メモ用紙を集め終わるまでは、退室できません。
7. この指示について質問がある場合は、試験監督に聞いて下さい。ただし問題の内容に関する質問はいっさい受けません。

「受験番号」を解答カードの定められたところに忘れずに書き入れること

(余 白)

次のページからの問題(1－40)には、それぞれ a, b, c, d の答えが選択肢として与えられています。各問題につき、a, b, c, dの中から、最も適切と思われる答えを1つだけ選び、解答カードの相当欄をマークして下さい。

例 (41)

a b c d

PART I

1. 「UFO という名付け」について、講義の趣旨と合致するものはどれか。
 - a. UFO と名付けることは、周囲の事象を把握しようとする人間のごく自然な行為である。
 - b. 未確認の物体を名付けるということは典型的な矛盾であり、名付けとして意味をなさない。
 - c. 欧米では暫定的な命名として、かつて一時的に使われたに過ぎない。
 - d. UFO とは実態の伴わない名付けであり、多くの人々に無用の不安を与え、混乱に陥れた。

2. それぞれの言語はあらゆるものを言葉で表そうとするが、翻訳しようとすると言語間のギャップが見られることを講義者はどのように感じているか。
 - a. 発音や文法が言語ごとに異なるのは仕方がないが、差をなくす努力をすべきである。
 - b. 人間は過剰なまでの言葉を使い世界を認識しているが、所詮人間のすることに完璧はない。
 - c. 言語描写は言語ごとに異なる見方が働き、一対一対応になっていないところが興味深い。
 - d. 認識できることが言語ごとに異なることは、人間の認知能力に優劣があることを示す。

3. 「言わずもがな」「沈黙は金」「言うだけ野暮」に表れている日本語のコミュニケーションについて講義者の立場はどれか。
 - a. コミュニケーションの道具である言葉は不完全であるという嘆き。
 - b. あえて言葉に出さないことがコミュニケーションとなることへの逆説的感慨。
 - c. 日本語独自の表現を他の言語に翻訳するのは難しいという諦め。
 - d. 擬声語、擬態語よりも静謐^{せいひつ}や静寂を重要視する日本文化への賞賛。

4. この講義で引用された芭蕉の俳句の特徴の説明として最も適切なものはどれか。
- a. 空間と時間の広がり類似性に焦点を当てている。
 - b. カワズの軽やかな動きを想像させている。
 - c. 一つの音と静寂とのコントラストに焦点を当てている。
 - d. カワズの鳴き声の美しさを想像させている。
5. 講義の中で論じられた日本語から英語への翻訳について、論旨に最も近いものはどれか。
- a. 文法構造の違いを忠実に反映することが良い翻訳の条件である。
 - b. 文法構造の違いを語彙の選択によって乗り越える必要がある。
 - c. 語彙の意味を正確に把握すれば翻訳が成立する。
 - d. 表出していない言外の意味を訳出する必要がある。
6. カワズを a frog と訳す場合と、frogs と訳する場合について、最も適切な指摘はどれか。
- a. カワズの飛び込む音の美しさに焦点が当てられているので、複数として訳すべきである。
 - b. カワズの生態から考え、単数として訳すべきである。
 - c. 英語では単数と複数の区別をせざるを得ないため、どちらで訳すかによって異なる印象が生じる。
 - d. 単数として訳すか、複数として訳すかで、意味に大きな違いはない。
7. 西暦1年が1月1日から始まっている理由として適当なものはどれか。
- a. 序数として1が用いられているから。
 - b. 聖書にはない実際のキリストの誕生日を根拠としているから。
 - c. アラビア数字は1から始まっているから。
 - d. 当時の暦での冬至に当たる日を新年の始まりとしていたから。

8. キリストの生誕日の日付が聖書に記載されていないという指摘の意図として、最も適切なものはどれか。
- a. 歴史的事実の記憶に誤りがあることを示すため。
 - b. 新約聖書の記述が歴史的事実に即していることを示すため。
 - c. 西暦といわれるカレンダーが歴史的事実に基づいていることを示すため。
 - d. 日常的な習慣や伝統に歴史的根拠がない場合があることを示すため。
9. 下記の計算式の解答が0となるものを1つ選べ。
- a. $(\frac{1}{8} \times 8^2 + \frac{1}{4} \times 4^4 - \frac{1}{2} \times 2^2) \times (4 \times 3 - 5 \times 3 + 2 \times 3 - 3)$
 - b. $(\frac{1}{8} \times 8^2 + \frac{1}{4} \times 4^4 - \frac{1}{2} \times 2^2) \div (6 \times 3 - 5 \times 3 + 2 \times 3 - 3)$
 - c. $(\frac{1}{8} \times 8^0 + \frac{1}{4} \times 4^0 - \frac{1}{2} \times 2^0) \times (4 \times 3 - 5 \times 3 + 2 \times 3 - 7 \times 3)$
 - d. $(\frac{1}{8} \times 8^0 + \frac{1}{4} \times 4^0 - \frac{1}{2} \times 2^0) \div (6 \times 3 - 5 \times 3 + 2 \times 3 - 7 \times 3)$
10. この講義全体の論旨として最もふさわしいものはどれか。
- a. 言語間に存在する隙間を埋めようとする翻訳には完璧はない。
 - b. 無や沈黙を捉える行為が、言葉による認知の限界を打ち破る可能性を秘めている。
 - c. 言語間の隙間や、数字のゼロが、存在の持つ深淵を示唆している。
 - d. 言葉や数字によって表現しがたいものを名づける行為には限界がある。

PART II

次の論述を読んで、以下の設問に答えなさい。

言語学の入門書は、「言葉はコミュニケーションの道具である」という定義から始まることが多い。コミュニケーションが引き合いに出されるということは、言葉は話し手と聞き手がいて情報や意志を伝えるための道具であると考えられているということである。伝える事柄には必要に迫られて言わなくてはならないことも多いが、言語の重要な機能のひとつとして、「イマ・ココにない」ことについて伝えるということがある。ここでは「イマ・ココにない」ことを言葉で表現する機能と意義について、3つの点から考察する。

第1に、「イマ」でも「ココ」でもないことを表現する言い方としてすぐに思い起こされるのは否定文かもしれない。2歳にもならない子供が「ブーブーこない」「アイスなくなっちゃった」というような発話をするのを考えると、否定の文を作ることは言語の根幹を成す能力であり、少なくとも母語の習得においては、困難を伴わない自然な、かつ必須の機能であると考えられる。また、外国語学習においても初級の段階で、英語なら“He is not tall.”“I don't play soccer.”などを学ぶことや、外国人向けの日本語の教科書で第1課に「わたしは せんせいでは ありません」という文が導入されていることなどを鑑みると、外国語学習においても否定文の作り方は早い段階で習得すべき項目となっていることがわかる。

否定する機能はどの言語にも備わっているが、実際の用法は言語ごとに異なり、複雑な独自のルールが使われる。たとえば、英語の否定は存在しないものを主語や目的語にできるという特徴を持つ。“Nobody came.”“I have no brother.”という否定文は、「存在しない人が来た」、「存在しない兄弟を持っている」と言っているのであり、抽象的な言い方であるがその理解は難しいものではない。2つの否定が重なる言い方、先ほどの例にさらに否定を重ねた“Nobody never came.”“I don't have no brother.”という文は、否定語が2つ重なっているので肯定の意味だと解釈するのが規範文法の考え方である。しかし、このような $(-1) \times (-1) = +1$ というルールは、科学の発達や古典主義への回帰により科学的理論が重要になった18世紀以降特に重要視されるようになったのであり、それ以前は否定語が2つあるいは4つだから肯定の意味、3つだから否定の意味になるのではなく、どの言い方も強い否定を表した。では、今の英語で、“It is not unusual for him to be late.”という言い方は、肯定、否定どちらの意味に解釈すればいいだろうか。このような言い方は回りくどい言い方で単純な肯定文とは微妙な意味の差があるという説明もされるが、規範文法の解釈では「彼はしょっちゅう遅れて来る」という意味になる。このように、多重否定は規範文法でも使われることはあるが、否定の意味で

の“Nobody never came.”のような言い方は教養がないと思われるので忌避すべきとされている。しかし、特定の方言や変種では“*No one never said nothing to nobody.*”は強い否定表現であり、ゆえにポップミュージックの歌詞や小説などに頻繁に登場する。

否定の接頭辞はふつう打ち消しの意味を加えるが、時に積極的な意味を表すことがある。日本語で「不公平」は公平でない、「無関心」は関心がないということであり、英語で impossible は possible でない、unhappy は happy でないことを表す。しかし、“Columbus discovered the new world.” “I have to unpack my suitcase.” と言うと、コロンブスは新大陸を覆い隠すことをしなかった、スーツケースを詰めないでおくというのではなく、「発見した」、「荷物を解かなくてはならない」という積極的意味合いとなり、辞書によっては unpack ≠ pack のように正反対の意味でないことに注意喚起を促している。同様に disarm は武器を持たないのではなく武装解除という行動を意味する。“Please disembark.” と飛行機や船でアナウンスがあれば、それは embark (乗り込むことを) しないで下さいというのではなく、上陸して下さいの意で、これも否定の接頭辞で始まる語が積極的行動を表している。

「イマ・ココにない」ことを伝える能力には、過去や未来について話すことも含まれる。一部の動物にもその能力が備わっており、たとえば蜂は蜜がどちらの方向にあるか仲間に伝えることをするし、蟻やイルカも仲間に情報を伝える能力を持っている。チンパンジーに言語を教える試みもなされて来た。しかし、動物のコミュニケーションはほぼ目の前の情報と刺激によるものであり、羊が輪になって「来月の分としてこの草は今食べないでおう」と相談したり、子犬たちが母犬が死んで1年経ったと回顧して鳴き声を交わすことはないように見える。しかし、人間は、昨日の出来事も、音としては消えてしまった50年前の演奏も、宇宙の始まりも話題にすることができる。また明日の天気、将来の夢、ビッグバンが起こらなかったらという仮定についてもそれを眼前に見ないまま互いに話すことができる。人間は言葉によって時空を超えるのである。

第2に、「イマ・ココにない」ことを言い表すもう1つの特徴として、必ずしも真ではないかもしれない、あるいは場合によっては事実と正反対のことを発話できるという機能があり、これもどの言語にも備わっている。まず、言葉はポジティブに作用する。「やる気スイッチが入ったね」「努力すれば夢はかなう」と言われて頑張ろうと思うことや、「がんばろう日本」というステッカーが震災後あちこちで見られたのは言葉による励ましであり、英語でも“Nothing is impossible!” は強い励ましの言葉である。そして、権威を持つ人が発する言葉は時に人生を変えるパワーを持つ。「3年の懲役に処する」「癌は寛解しました」という言葉は、裁判官と医者言葉であれば大きな意味を持つ。

しかし、専門職でない人もそのような言葉を口にすることはできる。ただし、素人に「懲役3年」とか「癌が寛解した」と言われてそれを信じる人はいないだろう。それでも、不謹慎と

批難されようともそれを発話することはだれにでもできる。さらに人間は子供ですら言葉で嘘をつく。「クッキー食べてない」と言うその口元にクッキーのかけらがついていた、自分から手を出したのに「あの子が先にぶった」と泣いたりする。英語圏では知り合いに会った際、相手が身につけている物をちょっと褒める習慣があるが、ポリネシア人の学生がしていたネックレスを“Your necklace is beautiful.”と英語の先生が褒めたら、その学生はネックレスをその場で外し、「どうぞ差し上げます」と嬉しそうに差し出した。英語圏出身の先生は、ネックレスを手に困惑したという。

もし人間の言葉が真なることしか表現できないのであれば、世の中はもっと平和かもしれない。「記憶にありません」という詭弁を使えなくなれば、政治は分かりやすくなるだろう。「国民が大事」と言ったそばから、「いや、自分の利益がいちばん大事だと思っている」と天の聲がするのであれば、心にもないことを口にできなくなる。昨年も甚大な被害が出た振り込め詐欺も、ほんとうの息子や孫でなければ、そして今すぐ大金が用意できなければ会社を辞めさせられるという状況が真でなければ「大変なことが起きたからお金を振り込んで」と口にはできず、詐欺被害は減るだろう。電話を受けた老人が相手が息子や孫と misunderstand し大金が必要という状況を言葉だけで想像して銀行に走るの、言葉によるコミュニケーションが悪用されたということである。このように、人間の「イマ・ココにない」ことを想像する言葉の能力はたくましく発達しており、時にその想像力が異常な行動に走らせる。テロで多数の死者が出た後、アラブの人はすべてテロリストであると敵視する風潮が生じたり、災害や事故があるとそこで作られた農産物は危険だと風評被害が起こるのも、科学的根拠によるのではなく、そうなるかもしれない、そうになったらおおごとだと言葉で考えた結果がパニックへと誘導する。そして、人間は言葉で繰り返し考えた悪い結末を非常に安易に信じる。つまり、恐怖が襲うとき言葉が大きく作用する。人間が精神を病むのは言葉があるゆえである、とある言語学者は言う。言葉はいいことだけをコミュニケーションの内容とするのではなく、人を不安に陥れ、反復することで不安を増大させる。

最後に、日本語の「イマ・ココ」の捉え方について例を2つ挙げる。「無印良品」という店を町で見かけるが、「無印」というのはブランドなしのブランドということである。消費という物質主義の場においてすら無の発想が日本人に問題なく受け入れられ、むしろこの「無印」が「印がないゆえの」ブランドを確立している。海外においても、機能的な質の高い商品だけ売るというコンセプトが受け入れられ世界のあちこちにたくさんの店舗を展開している。ただし、店の名前はアルファベット4文字で MUJI となっており、無印が途中で切られてしまって、no-brand branding という意味が伝わらないただの「ムジ」という音でしかなくなっている。しかも、現在では日本でもこの MUJI が店のロゴとして使われている。

日本語は「イマ・ココにいる」話し手が消えるという主観的把握の言語であるという特徴を

持つ。たとえばある調査で「外へ出ると、月が明るく輝いていた」という日本語の翻訳として次のふたつの例では、英語母語話者は圧倒的にb)を自然な表現として選ぶことが知られている。

a) When I went out, the moon was shining.

b) When I went out, I saw the moon shining.

英語は場面の外に立った話し手が自身をも客体視して言葉にしているが、日本語では話し手は見えの原点となって言葉には表されず、自らの「イマ・ココ」だけをその場限りで語る自己中心的な情報伝達となされる。確実にそこに存在している話し手がいちいち言及されなくて構わない、むしろ話し手の存在は言葉の上で忘れられるのが日本語の世界の捉え方である。

以上、言葉によって今ここにない事象や概念を伝える人間の能力について考察した。ではこの「イマ・ココにない」ことを言葉にできる能力を言語学では何という用語を用いているか、英語ではそれを displacement と呼んでいる。[]

参考文献

池上嘉彦、『英語の感覚・日本語の感覚』 日本放送出版協会、2006

石黒 昭博ほか、『総合英語 Forest』 桐原書店、2016

近藤安月子、『日本語らしさの文法』 研究社、2018

寺内久仁子ほか、『にほんご1』 アルク、2007

増田 明子、『MUJI 式・世界で愛されるマーケティング』 日経 BP 社、2016

山口堯二、『日本語学入門』 昭和堂、2005

綿貫 陽ほか、『ロイヤル英文法』 旺文社、2000

Ballard, Kim. *The Frameworks of English*. Palgrave Macmillan, 2013.

Biber, Douglas, et al. *Longman Grammar of Spoken and Written English*. Pearson Education, 1999.

Freeborn, Dennis. *A Course Book in English Grammar*. Palgrave, 1995.

11. 「言葉はコミュニケーションの道具である」という定義から始めた筆者の意図は以下のどれと考えられるか。
- a. 入門書の著者は独自の定義を提示すべきという主張
 - b. 相手がいなくても言語を使うことはあるという懐疑的な問いかけ
 - c. この定義が広く受け入れられているという示唆
 - d. コミュニケーション自体を定義してから言語の定義をすべきという考え
12. “No one never said nothing to nobody.” という文について正しい記述はどれか。
- a. 言語ではなく、 $(-1) \times (-1) = +1$ という数学の能力を試す基準である。
 - b. 多重否定は科学的理論を理解しない話し手によって長い間使われて来た。
 - c. Nothing is impossible. と同様、話し手が非常に前向きになっていることを表す。
 - d. 規範文法で「皆が何かを言った」の意、特定の方言や変種で「誰も何も言わなかった」の意。
13. 文中で用いられている discover, unpack, disarm という例から明らかになることは何か。
- a. 否定の接頭辞が具体的行動を表す動詞へと意味の変化を遂げている。
 - b. 否定の接頭辞を動詞に付けて類義語を作る英語独特の言い回しである。
 - c. 英語の動詞は否定の接頭辞を付ければ常に否定の意味になる。
 - d. 日本語の「不公平」「無関心」という言い方との類似性が見られる。
14. この論旨から推測すると、「ゆびきりげんまん うそついたら はりせんぼんのますゆびきった」という約束に最も顕著な意義はどれか。
- a. 針千本飲ませるというあり得ないユーモアで非現実性を強調するため。
 - b. 医者でもないのに指を切るなどと軽々しく口にすべきではないと教えるため。
 - c. 子供が嘘をつくのと同様、大人もあり得ないことを口にすることがあると示すため。
 - d. 真でないことを用いるレトリックにより子供に約束を守らせるため。

15. ネックレスを学生にもらった英語の先生の気持ちに最も近いのはどれか。
- a. 大事なネックレスを差し出してくれた気持ちに感動した。
 - b. 余計なことを言って気を遣わせてしまったと後悔した。
 - c. コメントを真に受けると思っていなかった自分を恥じた。
 - d. 英語圏では当然の社交辞令が通じなかったのでうろたえた。
16. 筆者によれば詐欺の電話に引っかかったり、風評を信じてしまう理由は何か。
- a. 人間には言葉で考えることで想像力を膨らませ鵜呑みにする習性があるから。
 - b. 理不尽なことが多い世の中であるゆえ詭弁への警戒心が強いから。
 - c. Misunderstand は理解しないことではなく、異なった理解をする人間の習性を表すから。
 - d. 詐欺被害に遭わないようにという過剰な警戒心を持つお年寄が多いから。
17. 動物が「イマ・ココにない」ことを発話しないことについて筆者はどう考えているか。
- a. 動物は短命で目の前のことで精一杯で、将来について考えるのは人間の責任である。
 - b. 言葉によって時空を超える能力は人間独自のものと考えられる。
 - c. 動物も先の心配や過去の振り返りをするが、仲間と共有するように創造されなかった。
 - d. 蟻や蜂には今ここ以外を考える抽象的思考は生き延びる上でかえって障害になる。
18. 無印良品の海外進出の例から筆者が最も主張したいことはどれか。
- a. 海外展開を続けるために no-branding brand のコンセプトを強く主張すべきである。
 - b. 無印ブランドという考えが日本語を使わない世界各地に広がったのは驚愕である。
 - c. 無印ブランドという日本語独自の言い方がアルファベット 4 文字になり伝わらなくなった。
 - d. 世界に出て行って短くなった MUJI というロゴも物質主義に長けた日本人は受け入れた。

19. 日本語の発話において話し手自身が言及されないことが多いというが、このことを映像にたとえるとどれがいちばん近いか。
- a. 撮影者が写り込まない写真や動画
 - b. 話し手の互いの顔が一緒に映るインターネット電話
 - c. セルフタイマーで撮った家族の集合写真
 - d. 自撮り棒でその場の全員を撮影した写真や動画
20. 最後の文として [] に挿入されるべき文はどれか。
- a. 「イマ・ココにない」ことを言い表す能力も否定の接頭辞がアクションを表す手法で名付けられているのである。
 - b. 言語学は複雑な用語を用いて遠回しな説明を好む傾向がここでも顕著に現れているのである。
 - c. ここでも否定的意味が強調され、否定することで抽象化する人間の能力が高く評価されているのである。
 - d. 言語学は否定や強調の接頭辞が付いた用語ばかり使うので難しいと感じる要因がここにも現れているのである。

PART III

次の論述を読んで、以下の設問に答えなさい。

講義の中で、言葉と意思疎通の関係についての議論があった。人間の意思伝達において、確かに言語は重要な道具だが、決してそのすべてではない。しぐさ、表情、声色、あえて言葉を発しないことが、一定のメッセージを伝えることは誰もが日常的に経験している。契約書やルールをどこまで詳しく書くかも、国や状況によって異なり、書面のない方が信頼の証しとみられる場合もある。

文化人類学者のエドワード・T・ホールは、1959年の著書『沈黙のことはば』の中で、社会や文化による言語使用の違いに注目し、アメリカ人の自己文化中心的な傾向を指摘している。それによると、アメリカ人は率直な表現、ストレートな意思疎通、明確な情報伝達を好み、他の文化圏によくみられる無言の所作などの「非言語的言語」に対する理解が不十分だという。アメリカ人にとっての異文化圏とは、中東やアジアなどの非欧米諸国に限らない。同じ欧米文化圏に属していても、ギリシア人は率直な表現を繊細さの欠如ととらえがちであり、そこから外交交渉の場で意思疎通に大きな困難が生じた例があると同書は紹介している。

ホールの異文化理解に関する議論は古典的とみなされ、今となってはステレオタイプだとし、いくつか批判も出されている。だが、言葉が発せられるコンテキストに注目した彼の社会や文化の類型論は、今日なおわれわれに有効な視点を提供している。ホールによると、言語使用からみた社会のタイプには、「低コンテキスト」の社会と「高コンテキスト」の社会があり、前者の典型としてアメリカや西欧の社会が、後者の典型として日本社会があがっている。両者の違いは、前者が言葉によってできるだけ明瞭なメッセージを伝えようとするのに対し、後者は言語以外の文脈、つまりしぐさなどの身体的なコンテキストや日常の関係性をより重視し、そこではコード化された言葉が伝える情報量は意外に少ないという。

伝統的な日本の家庭では、夫が妻に「そのセーター、似合うね」とか、「いつも愛しているよ」などと語りかけることは稀で、むしろ不自然だったりする。妻の方も、「急にどうしたの」と反応しかねない。「男は無駄口をたたかない」という価値観はおそらく今も日本では生きている。他方、よく言われることだが、伝統的なアメリカの家庭で夫が“I love you.”と声もかけずに出かけたり、妻の手料理にほめ言葉の一つも言わなかったりすれば、妻は本気で離婚を考えるかもしれない。

もっとも、欧米社会では常に明示的な言語を重視し、暗示的なコミュニケーションを好まないかということ、そうでもない。例えば会社で、信頼する部下の失態を知った上司は、まず困っ

た表情や態度から高コンテキストの意思伝達を試み、それでも改善が期待できないようだ、低コンテキストのモードに切りかえ、部下の行動の問題点について丁寧な説明を行うことが多いという。一方、この部下が気落ちして帰宅すれば、パートナーはその表情の微妙な変化を察知し、あえて会社で何があったのかは問わず、そっとしておくかもしれない。こうして、異なる社会や文化圏により基本的なコンテキストの高低が異なるだけでなく、同じ社会の中でも、多様な人間関係や状況によって、コンテキストの高低は変化しうる。

さて、ホールによって高コンテキストの社会に位置づけられた日本では、この文化的傾向によってどのような問題が生じているだろうか。外国企業との商談での衝突、職場での誤解、部活内の「空気を読めない」ことによる失敗などは日常的に観察されるだろう。だが、それ以上に大きな問題は、明確な言葉による共通ルールが適用されるべき政治や行政の領域で起っている。

日本には、欧米に見られない「行政指導」とよばれる慣行が存在し、現在でもしばしば有効な行政手段として使われている。行政指導とは、明確な法的根拠がないにもかかわらず、行政機関が関係業界や個人に対して行うインフォーマルな指導ないし助言のことである。一方、企業や個人の側も法的な順守義務がないことを知りつつ、これに従うことが多い。例えば、過当競争を避けるために経済官庁が業界に対して行う助言、土地開発に際して自治体が行う指導などがある。権利義務関係の発生という法的効果をもつ行政処分ではないため、かつては行政指導とは「法的に無である」という見方もされてきた。

行政指導には指導の内容を記した書面がないケースも多く、担当職員のつぶやきに過ぎないことさえあるという。では、なぜ企業の側が行政指導に従うのかといえば、その背景に行政機関と業界との日常的な相互依存関係があり、双方がその関係の維持を重視しているからだと考えられる。関係が悪化すれば、行政の許認可権によって企業は不利益な扱いを受け、他方、行政機関にとっても関係業界から業務に必要な情報が入手できなくなるといった不都合が生じる。行政指導を英語に翻訳すれば administrative guidance となるが、英語の文献ではしばしば“gyosei-shido”とローマ字表記で紹介されてきた。日本の行政指導のような実態が欧米にはないため、それに対応する言葉など考えつかなかったということであろう。

行政指導が大きな社会問題となった出来事に、オイルショック翌年の1974年、石油元売り12社が独占禁止法違反で公正取引委員会から刑事告発された「石油ヤミカルテル事件」がある。市場でフェアに競争すべき企業同士が密かに生産調整を行い、違法なカルテルを結んで製品価格をつり上げることは、国民の利益を損なう行為である。ところが、その背後に通産省（現経済産業省）の行政指導があり、企業はそれに従ったに過ぎないとして、企業の幹部や業界団体は怒りをあらわにした。結局、元売り会社とその役員は起訴され、10年後に最高裁で有罪が確定したが、通産省にはおとがめがなかった。しかし、行政指導に関してはその公正さ

と透明性の確保が必要だとして、1993年に「行政手続法」が制定された。同法は「行政指導」の定義および手続について明文化し、指導を受ける側が請求すれば、担当者は指導内容を書面で交付すべきこととされた。

そこで明らかになったのは、開かれた公共空間でフェアに行われるべき行政活動や企業間の競争が、不透明な行政指導を介して仲間内の閉じた空間で行われ、部外者である他の企業や国民に不利益をもたらしてきた実態である。高コンテクストの文化を前提とする行政指導は、法の支配、適正手続、全体の奉仕者としての公務員といった憲法の理念からみると、問題が生じやすい行政手段だと考えられる。

これに関連して、最近の政治で話題になっている日本的な現象に「忖度」がある。古くからある日本語だが、たとえ上司からの明確な指示がなくても、部下である官僚がその意向を推しはかって行動するような場合に使われる。日常的な会話だけでなく、私立学校への国有地売却での不当な値引きや、犯罪行為となる公文書の改ざんの原因だったとして、大きな政治問題となった。2017年3月、日本外国特派員協会で森友学園の理事長が、自分と首相・首相夫人、および担当職員との間の関係とやりとりについて「忖度」の語を使った時、通訳はまず“surmise”と一語で訳した上で、“There was a mutual understanding between us.”などと説明を試みた。だが外国人記者からは、「首相や夫人の直接の口利きはあったのか」、「もっとはっきり答えてほしい」といった質問が寄せられ、通訳の説明だけでは日本語の忖度の実態は容易に伝わらなかった。

忖度自体が常に問題ある行為とはいえ、また欧米でも私的な領域では暗黙の了解や無言の圧力はある。ちょっとしたしぐさで、相手の気持ちや行動に影響を与えることも日常的にあるだろう。相手への好意や嫌悪のメッセージを、言葉ではなく高コンテクストの非言語的言語で伝えることは、人間関係の機微、文化の一部といってよい。しかし、政治や行政という公的な領域で、法令・書面・指示といった明示的根拠のないまま、公務員が忖度や指導を行うことの問題とリスクは大きい。なぜなら、政治の決定、行政の判断は人々の生活に重大な影響を及ぼし、それが仲間内への優遇、特定の個人や集団への不適切な配慮に基づくことが明らかになれば、政治行政への信頼は地に落ちるからである。

高コンテクストのコミュニケーションはどこにも存在する文化の一パターンといえる。だが、日本ではそれが家族やサークルといった同質集団を超えて、政治や行政という公的な領域にも広がっていることにもっと危機感をもつべきである。近代民主主義の諸制度は、低コンテクストの明示的コミュニケーションを前提に設計されている。

建国時に近代民主主義が当たり前だったアメリカにとって、「沈黙のことは」への理解が課題だとすれば、今なお政治的近代化と民主化の途上にある日本の公共空間では、明示的な言葉による対話の訓練が求められているように思われる。

参考文献

塩野宏『行政法Ⅰ』第6版、有斐閣、2015

新藤宗幸『行政指導－官庁と業界のあいだ』岩波書店、1992

エドワード・T・ホール著、國弘正雄ほか訳『沈黙のことば－文化・行動・思考』南雲堂、1966

(E. T. Hall, *The Silent Language*, Doubleday, 1959)

エドワード・T・ホール著、岩田慶治ほか訳『文化を超えて』TBSブリタニカ、1979 (E. T. Hall, *Beyond Culture*, Anchor, 1976)

21. ホールの描く典型的なアメリカ人にとって、理解が最もむずかしいのはどれか。
- a. 皮肉好きで婉曲な話し方をする文化人
 - b. 会社の利潤第一で商談に臨む経営者
 - c. 省益を前面に出して交渉する官僚
 - d. 何事も理詰めで語ろうとする学者
22. 石油ヤミカルテル事件であぶり出された日本固有の問題とは何か。
- a. 通産省が首相官邸に忖度し、業界に非合法のカルテル結成を命じたこと
 - b. 大企業同士が密室で談合し、監督官庁と国民を欺いたこと
 - c. 業界団体が通産省の行政指導や助言を無視し続けたこと
 - d. 通産省による特定企業への行政指導で、製品価格が不当につり上げられたこと
23. この論述の主題との関係で、行政指導のどのような側面が最も日本的だと考えられるか。
- a. 官僚の発想は常に省益優先で、国益意識に欠けること
 - b. 企業側に中央官庁へのお上崇拜と絶対服従の意識が揺るぎないこと
 - c. 官民の双方に民主主義は害悪だとの考えが根強いこと
 - d. 官庁と企業が阿吽あうんの呼吸で意思疎通を図れること
24. 行政指導は「法的に無」との見方が意味することは何か。
- a. 官庁が企業に非公式の指導をしても、法的根拠を欠き、法的効果がない場合が多いこと
 - b. 日本は実定法としての行政法規を欠き、官庁はもっぱら慣習法で対応していること
 - c. 日本の現行法規には今なお「行政指導」の文言や手続規定がないこと
 - d. 企業が行政指導を受けても一切文書が残されず、要求もできないこと

25. 欧米では行政指導が“gyosei-shido”とローマ字で表記される理由は何だと考えられるか。
- “administrative guidance”の語はアメリカの法令集に登録され、使えないため
 - “Mottainai”や“Omotenashi”のように海外に広まった日本の美德を伝えるため
 - 欧米ではそもそも日本の行政指導のような現象が見られないため
 - 最初に紹介した学者がローマ字表記を用い、それを日本政府が公認したため
26. 筆者が考えるフェアな行政活動に最も近いものはどれか。
- 国民の安全と利益のためには批判を恐れず、社会に果敢に介入すること
 - 法律に根拠のない行為は決して行わず、できる限り仕事量を減らすこと
 - あらゆる国民や企業を公平・平等に扱い、活動の透明度を保つこと
 - 首相官邸の意向を忖度し、官庁内の空気を読みながら行政を行うこと
27. ホールの社会の類型論に則して、以下のことが言えるときに、a～dの命題のうち、成り立つのはどれか。
「アメリカや西欧の社会は、低コンテクストの社会である。」
「日本の社会は、高コンテクストの社会である。」
- 「低コンテクストの社会は、『アメリカや西欧』以外の社会である。」
 - 「『アメリカや西欧』以外の社会は、低コンテクストではない社会である。」
 - 「高コンテクストの社会は、日本の社会である。」
 - 「高コンテクストではない社会は、日本の社会ではない。」
28. 「忖度」の説明の際、通訳は“There was a mutual understanding between us.”と訳しているが、“us”の関係の説明として最も適切なものはどれか。
- 開放的な議論を重んじ、利害関係をもたない者同士
 - 閉鎖的で利害関係をもつ者同士
 - 血縁と地縁によって結びついている者同士
 - 国際社会で通用するコミュニケーション能力をもつ者同士

29. 「空気を読むこと」と「忖度」の関係について言えることはどれか。
- a. 共に非言語的なコミュニケーションだが、空気を読むのは主に若者であり、忖度するのは大人である。
 - b. 共に高コンテクストのコミュニケーションであり、公的な意思疎通や意思決定には適切ではない。
 - c. 共に低コンテクストのコミュニケーションだが、空気を読むのは主に同僚の間であり、忖度するのは立場の弱い者である。
 - d. 共に言語重視のコミュニケーションであり、日本文化に見られる固有の強みである。
30. 筆者の主張に最も近い考えはどれか。
- a. 私的・公的な領域を問わず、日本では低コンテクストのコミュニケーションを定着させる必要がある。
 - b. 私的・公的な領域を問わず、日本では高コンテクストのコミュニケーションを定着させる必要がある。
 - c. 日本の私的な領域では、高コンテクストのコミュニケーションを定着させる必要がある。
 - d. 日本の公的な領域では、低コンテクストのコミュニケーションを定着させる必要がある。

PART IV

次の論述を読んで、以下の設問に答えなさい。

講義の中で、「無」や「ゼロ」とは何かを示す事例を、言語、漫画と俳句、暦、数、空間において考えてきた。ここでは、自然科学における「無」や「ゼロ」に関する事例をさらに考えてみる。

地球は太陽のまわりを約1年間の周期で公転している。この公転面の法線に対して、地球の地軸は約23.4度傾いている。地球上の多くの地域で気候の季節変化が見られるのは、この地軸の傾きが主な要因と考えられている。生物は季節毎に様態を変化させることから分かるように、多くの生物は季節の移り変わりを認識する能力をもっている。これらの動植物は、適切な季節を選び、開花して結実させ、子孫を残すための繁殖行動を行っている。闇は光がない「ゼロ」の状態であるが、この闇の長さが植物の繁殖には有意な差異を及ぼすのである。

生物はどのように季節変化を認識しているのか。カレンダーやデジタル式の時計を利用しているわけではない。1920年代に米国農務省所属のワイトマン・ガーナーとハリー・アラードらは、種々の条件下で農作物を栽培して、開花時期や成長を記録した。より良い栽培技術開発が当初の目標だったようだ。勿論、現在のような温度、照度、湿度などを自動制御できるような研究環境はなかった。彼らの創造性の豊かさ、実験技術の確かさ、過酷な実験への忍耐強さには、現代の多くの研究者も敵わないであろう。

植物の季節応答性は長日性、短日性、中性の3種に大別されることを彼らは発見した。長日性、短日性と言いながら、重要なのは実は光のない時間の方である。多くの植物種は夜（連続した暗期）の時間を計測する能力をもっている。しかも、それぞれの植物種に固有の長さの暗期（限界暗期：例えば8時間など）があり、この限界暗期よりも夜の長さが短くなると花芽をつけるのが長日性植物である。それとは逆に、限界暗期よりも夜の長さが長くなると花芽をつけるのが短日性植物であり、夜の長さとは無関係に花芽をつけるのが中性である。外界環境の明暗周期（光周期）へのこのような生物の応答性は光周性とよばれている。中性植物は光周期に対しての感受性がない。中性植物の多くは、人間が長い年月をかけてより良い栽培品種の育種を続けて得られたものと考えられている。開花ばかりでなく、サツマイモやジャガイモの「いも」の成長肥大も光周期により制御されている。

日本の主要作物であるイネは短日性植物である。イネの開花・結実にはイネの限界暗期以上の長さの連続暗期が一定期間以上継続することが必要である。夜のちょうど真中でLEDの光を10分間受ける日が一定期間以上続けば、開花や結実は著しく阻害される。このような実験

的処理を暗中断という。植物は青色光、赤色光、遠赤色光などの光の波長の違いも識別することができることが分かっている。多くの植物では、暗中断における光の波長の効果が異なっている。例えば、赤色光には暗中断の効果があり、遠赤色光にはこの赤色光による暗中断効果を打ち消す効果がある。一方、遠赤色光には暗中断の効果はない。このような生物の正確な時間感覚は、生物がもつ概日（生物）時計によるものであることが最近の研究により明らかにされている。2017年のノーベル生理学・医学賞は、「体内の概日リズムを制御する分子メカニズム」を発見した研究成果に対して、ジェフリー・ホール、マイケル・ロスバッシュ、マイケル・ヤングに授与された。私たちの記憶というメカニズムにとっても、時間感覚はとても重要である。時間感覚なしに、過去、現在、未来の区別をすることが難しいことは容易に想像できる。この時間感覚は現在の私たちの日常生活でも実感できる。例えば、8時間おきの3交代制のシフト労働や長距離の海外旅行では時差の影響が生じる。

地球温暖化により北極地方の水河の一部が融けて海水面が上昇することで、赤道付近の国々や海拔ゼロの地域の海岸付近の農作物栽培への影響が危惧されている。海水は高濃度の塩分を含み、その大部分は塩化ナトリウム（NaCl）である。多くの植物では、光周期の他に、高温や高塩濃度などの環境ストレスにより、花芽形成時期が顕著に変化したり、生育に障害がおこることが知られている。

ある種の長日性植物はモデル実験植物として多くの研究がなされ、全ゲノムの遺伝子の塩基配列解読も終了している。約30000個のほぼ全ての各遺伝子について、機能欠損型（本来の機能を失った）の突然変異系統が世界に数カ所ある系統保存センターにて維持・管理されている。遺伝子の塩基配列や突然変異体の情報には、世界中の研究者がアクセス可能で、このモデル実験植物ばかりでなく、野菜・果物・穀物を含むさまざまな植物の研究に利用されている。ショウジョウバエやハツカネズミが、モデル実験動物として、人間の遺伝病研究や製薬に利用されているのと同様である。植物研究から得られた成果が、ヒトの研究に役立つ可能性がある。

アルツハイマー病のような病気により、記憶能力が低下することが分かっている。アルツハイマー病の一部は、遺伝的要因が原因との研究結果が公表されている。このような遺伝病の治療や農作物の新規系統開発などに、ゲノム編集という最新の科学技術が応用できるのではないかの期待が集まっている。

下記のような8つの実験を実施あるいは計画した。いくつかの実験については、内容の一部のみが書かれている。記載内容をよく読み、各実験に関係する設問に解答せよ。

＜実験1＞

短日性植物Aを用いて、暗中断の実験を行った。暗期中に赤色光を5回と遠赤色光を5回、合計10回、各10分間の照射を連続して行った。

31. <実験1>について、赤色光と遠赤色光の照射順の異なる実験は何通りあるか。次の中で最も適切なものを選び。
- a. ${}_{10}C_5 = 252$ 通り
 - b. $2^{10} = 1024$ 通り
 - c. $2^5 = 32$ 通り
 - d. $2 \times 5 \times 10 = 100$ 通り

＜実験2＞

短日性植物Bを連続した明期と暗期からなる短日条件Bで栽培すると花芽をつける。暗期中に赤色光を10分間照射することで十分な暗中断の効果が得られ、花芽をつけない。続けて遠赤色光を10分間照射することでそれ以前の照射時間の長短に関わらず、赤色光による暗中断の効果を打ち消すことができ、花芽をつける。遠赤色光を1回だけ10分間照射しても、暗中断の効果はなく、光照射を行わなかった連続暗期と同様に花芽をつける。暗期中に赤色光を8回と遠赤色光を4回、合計12回、各10分間の照射を連続して行った。なお、10、11、12回目はそれぞれ赤色光、赤色光、遠赤色光の照射であった。

32. 短日条件Bと比較したとき、<実験2>の実験結果として、次の中で最も適切なものを選び。
- a. 短日条件Bとは異なり、花芽をつけない。
 - b. 短日条件Bと同様に、花芽をつける。
 - c. 短日条件Bと比較して花芽形成時期が顕著に早まる。
 - d. 短日条件Bと比較して花芽形成時期が顕著に遅れる。

＜実験3＞

植物Cの生育に及ぼす高塩濃度ストレスの影響を調べる実験を行った。この実験では濃度0.5 mol/Lの塩化ナトリウム (NaCl) 水溶液を20リットル準備した。

33. 塩化ナトリウム (NaCl) のモル質量は58.44 g/molである。<実験3>に必要なNaCl水溶液をつくるには、何gのNaClが必要であるか。次の中で最も適切なものを選び。
- a. 117 g
 - b. 584 g
 - c. 1169 g
 - d. 58440 g

<実験4>

植物栽培装置内で暗中断の実験を行った。赤色光ランプ(L1)から対象となる植物Dまでの距離を r_1 とすると、植物D付近では暗中断の効果が得られる必要十分な光強度(S_1)となることが分かっている。赤色光ランプ(L1)から対象となる植物Dまでの距離を $r_1 \times 2$ 、 $r_1 \times 3$ 、 $r_1 \times 4$ とすると、植物D付近での光強度は $S_1 \times \frac{1}{4}$ 、 $S_1 \times \frac{1}{9}$ 、 $S_1 \times \frac{1}{16}$ となった。なお、実験には複数の植物個体を用いており、各植物個体にも一定の大きさがあるが、簡単のため、各実験における赤色光ランプ(L1)から植物Dの各個体までの距離は同じとする。

34. 対象となる植物付近の光強度について、<実験4>の結果から得られる解釈として、次の中で最も適切なものを選べ。
- a. 光源からの距離の三乗に正比例する。
 - b. 光源からの距離の三乗に反比例する。
 - c. 光源からの距離の自乗(二乗)に正比例する。
 - d. 光源からの距離の自乗(二乗)に反比例する。

<実験5>

<実験4>と同様に、植物栽培装置内で暗中断の実験を行った。赤色光ランプ(L1)から対象となる植物Eまでの距離を r_1 とすると、植物E付近では暗中断の効果が得られる必要十分な光強度(S_1)となることが分かっている。L1が故障したため、L1の代わりに、L1の64倍の光強度の赤色光ランプ(L2)を光源として実験を行った。対象となる植物Eまでの赤色光ランプ(L2)の距離を r_2 とした。

35. <実験5>について、次の中で最も適切なものを選べ。
- a. r_1 は r_2 の8倍である。
 - b. r_1 は r_2 の $\frac{1}{8}$ 倍である。
 - c. r_1 は r_2 の4倍である。
 - d. r_1 は r_2 の $\frac{1}{4}$ 倍である。

<実験6>

植物FとGを用いて、光周性と限界暗期を調べる実験を植物栽培装置内で行った。栽培条件として用いた1日(24時間)あたりの明期と暗期の長さは、ア)明期24時間・暗期0時間(24L0D)、イ)22L2D、ウ)20L4D、エ)18L6D、オ)16L8D、カ)14L10Dの6種類とした。植物Fは栽培条件ア)~オ)で、植物Gはカ)だけで花芽を形成した。

36. <実験6>に関する文章中の植物FとGについて、次の中で最も適切なものを選べ。

- a. 植物Fは限界暗期が8時間よりも長い短日性植物であり、植物Gは限界暗期が10時間よりも短い長日性植物である。
- b. 植物Fは限界暗期が8時間よりも短い短日性植物であり、植物Gは限界暗期が10時間よりも長い長日性植物である。
- c. 植物Fは限界暗期が8時間よりも長い長日性植物であり、植物Gは限界暗期が10時間よりも短い短日性植物である。
- d. 植物Fは限界暗期が8時間よりも短い長日性植物であり、植物Gは限界暗期が10時間よりも長い短日性植物である。

<実験7>

植物FとGを用いて、光周期による花芽形成への影響を調べる実験を植物栽培装置内で行った。1日(24時間)あたりの明期と暗期の長さは、赤道上の地域と同じとした。

37. <実験7>について、次の中で最も適切なものを選べ。

- a. 植物Fは花芽をつけず、植物Gは花芽をつける。
- b. 植物Fは花芽をつけ、植物Gは花芽につけない。
- c. 双方ともに花芽をつける。
- d. 双方ともに花芽につけない。

<実験8>

モデル実験植物Hは長日性植物である。栽培の過程で、光周性が長日性から短日性へ変わった突然変異体が見つかった。原因となる遺伝子を特定して塩基配列を決定した。正常型との比較から、概日時計の制御に関わる2つの遺伝子に機能欠損型の変異が生じていることが分かった。これら2つの遺伝子は、多くの植物において高度に保存されている。長日性の作物、果樹を用いて、上記の遺伝子の相同性遺伝子を対象として、ゲノム編集技術により、機能欠損型の変異導入を試みた。実験室内において、光周性変化の有無を調査予定である。

38. <実験8>で使用予定のゲノム編集技術について、次の中で最も適切なものを選び。
- a. ある生物種の全遺伝子の発現量の相対値を解析する技術
 - b. ある生物種のゲノムを別の生物種のゲノムに入れ替える技術
 - c. ある生物種の全DNA配列を解読する技術
 - d. ある生物種の特定の遺伝子配列に変異を誘導する技術
39. 中性植物（光周期への応答性が無い植物）の組み合わせはどれか。次の中で最も適切なものを選び。
- a. キュウリ、トマト
 - b. アサガオ、コスモス
 - c. アブラナ、コムギ
 - d. ダイコン、ブロッコリー
40. 地軸の傾きがゼロの場合、現在と比較して、それぞれの地域における年間の季節変化はどのようにになると考えられるか。次の中で最も適切なものを選び。
- a. 現在とほぼ同じになる。
 - b. 小さくなる。
 - c. 大きくなる。
 - d. 大きくなったり、小さくなったりを繰り返す。

参考文献

L・テイツ／E・ザイガー編、西谷和彦／島崎研一郎監訳『植物生理学』 培風館、2004

(このページは空白です。)